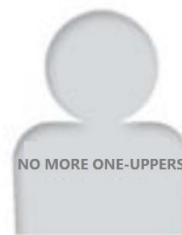


履 歴 書

2025(令和 7)年 5 月 12 日現在



ふりがな おかの えいじ 氏 名	岡野 衛士	※男・女
1970(昭和 45)年 4 月(省略)日生	本籍	堺市
ふりがな なごやしみずほく 現 住 所 名古屋市瑞穂区(以下省略)	Tel: (省略) Fax: (省略) e-mail: (省略)	
ふりがな なごやしりつだいがくだいがくいんけいざいがくけんきゅうかなごやしみずほくみずほちょうあざやまのぼた1 連 絡 先 名古屋市立大学 大学院経済学研究科 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑 1 丁 467-8501	Tel: 052-872-5721 Fax: 052-872-5721 e-mail: eiji_okano@econ.nagoya-cu.ac.jp	

年 月	学 歴
1989(平成元)年 3 月	同志社香里高等学校卒業
1989(平成元)年 4 月	同志社大学商学部入学
1993(平成 5)年 3 月	同志社大学商学部卒業, 同志社大学学士(商学)
2000(平成 12)年 4 月	一橋大学大学院商学研究科修士課程経営学修士コース入学
2002(平成 14)年 3 月	一橋大学大学院商学研究科修士課程経営学修士コース修了, 一橋大学修士(経営)
2002(平成 14)年 4 月	一橋大学大学院商学研究科博士後期課程入学
2005(平成 17)年 3 月	一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了, 一橋大学博士(商学)
年 月	職 歴
1993(平成 5)年 4 月	藤沢薬品工業株式会社(現アステラス製薬株式会社) 入社
2000(平成 12)年 4 月	藤沢薬品工業株式会社退職
2003(平成 15)年 10 月	一橋大学大学院商学研究科(現大学院経営管理研究科) ティーチングアシスタント(2004年 3 月まで)
2004(平成 16)年 11 月	一橋大学大学院商学研究科 ティーチングアシスタント(2005 年 2 月まで)
2005(平成 17)年 4 月	千葉経済大学経済学部経済学科専任講師(2008 年 3 月まで)
2008(平成 20)年 4 月	千葉経済大学経済学部経済学科准教授(2014 年 3 月まで)
2008(平成 20)年 8 月	コロンビア大学日本経済経営研究所客員研究員(2009 年 7 月まで)
2012(平成 24)年 7 月	ルクセンブルク大学経済分析研究センター(現経済学経営学研究センター) 招聘研究員(ルクセンブルク大学による費用負担, 2012 年 10 月まで)
2014(平成 26)年 4 月	名古屋市立大学大学院経済学研究科経済学専攻教授, 現在に至る
2017(平成 29)年 8 月	ロンドン大学バークベックカレッジ経済学数学統計学部客員研究員(2018 年 8 月まで)
2020(令和 2)年 4 月	名古屋市立大学大学院経済学研究科附属経済研究所長(2022 年 3 月まで)
年 月	学会および社会における活動等(所属学会は別記)
2016(平成 28)年 5 月	日本金融学会理事(2022 年 5 月まで)
2019(令和元)年 5 月	日本金融学会中部部会部会長, 現在に至る

2019(令和元)年 12 月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (基盤研究(C), 金融およびファイナンス関連, 2022 年 10 月まで)
2022(令和 4)年 5 月	日本金融学会常任理事 (国際交流担当, 2024 年 5 月まで)
2023(令和 5)年 3 月	名古屋大学国際経済政策研究センター 外部評価委員 (2023 年 3 月まで)
2024(令和 6)年 5 月	日本経済学会代議員, 現在に至る
年 月	免許および資格
	該当無し
年 月	賞罰 (研究上の受賞歴は別記)
	該当無し

博士学位論文

題目 インフレターゲットリング: ニューケインジアンオープンエコノミーマクロ経済学の視点

指導教官 小川英治 (主), 釜江廣志 (副), 渡辺努 (非公式).

審査員 釜江廣志 (主査), 清水啓典, 小西大.

所属学会

日本応用経済学会 (会員, 2016 年 3 月～現在), 日本金融学会 (会員, 2003 年 10 月～現在), 日本経済学会 (会員, 2003 年 10 月～現在)

奨学金・助成金

1 日本学術振興会・文部科学省

岡野衛士が研究代表者

- 1.1 日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(C), 2025 年 4 月～2028 年 3 月, “通貨発行益に着目したデフォルトを抑制しつつインフレを安定化する金融政策の分析 (課題番号 25K05169),” 6,110 千円.
- 1.2 日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(C), 2022 年 4 月～2025 年 3 月, “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in an Open Economy (課題番号 22K01557),” 3,770 千円.
- 1.3 日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(C), 2019 年 4 月～2022 年 3 月, “Understanding the Gains from Wage Rigidity in a Currency Union with Default Risk: Focusing on the Relationship between Terms of Trade and Fiscal Balance (課題番号 19K01755),” 41,600 千円.
- 1.4 日本学術振興会 科学研究費補助金国際共同研究加速基金, 2016 年 4 月～2019 年 3 月, “量的緩和政策は有効か? DSGE モデルと日米データによる検証 (課題番号 16KK0060),” 12,200 千円.
- 1.5 日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(C), 2016 年 4 月～2019 年 3 月, “DSGE モデルを用いた量的緩和政策再評価: 超過準備と貸出増加のメカニズム (課題番号 16K03745),” 3,250 千円.
- 1.6 日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(C), 2013 年 4 月～2016 年 3 月, “デフォルト危機下のユーロ圏での金融政策と財政政策: 内生的デフォルトモデルでの検討 (課題番号 25380400),” 4,290 千円.
- 1.7 文部科学省 科学研究費補助金若手研究(B), 2010 年 4 月～2013 年 3 月, “欧州通貨圏における最適金融政策の下での最適財政政策の役割とルール (課題番号 22730257),” 3,640 千円.
- 1.8 日本学術振興会 科学研究費補助金若手研究(スタートアップ), 2006 年 8 月～2008 年 3 月, “東および東南アジア諸国のインフレターゲットリング (課題番号 18830068),” 2,460 千円.

岡野衛士が研究分担者

- 1.9 日本学術振興会 科学研究費補助金科学研究費補助金基盤研究(C), 2023年4月～2026年3月, “為替レートの変化がインフレとデフォルトリスクに与える影響 (課題番号 23K01471),” 4,680千円 (研究代表者: 江口允崇)
- 1.10 日本学術振興会 科学研究費補助金科学研究費補助金基盤研究(C), 2019年4月～2023年3月, “政府のデフォルトリスクが存在する場合の最適財政・金融政策の研究 (課題番号 19K01722),” 4,290千円 (研究代表者: 江口允崇).
- 1.11 日本学術振興会 科学研究費補助金若手研究(B), 2016年4月～2019年3月, “ゼロ金利下での政府支出は有用か-DSGEモデルを用いた理論分析と日米の実証分析 (課題番号 16K03707),” 3,510千円 (研究代表者: 江口允崇).

2 その他

- 2.1 石井記念証券研究振興財団 研究助成金, 2018年12月～2020年3月, “A Role Model of Monetary and Fiscal Policy Rules in an Economy with Sovereign Risk: Evidence from Indonesia,” 700千円 (研究代表者: 岡野衛士).
- 2.2 大幸財団 人文・社会科学系学術研究助成, 2015年12月～2017年3月, “ウリベ氏のソブリンリスクの財政理論再訪: 動学的確率的一般均衡の視点から,” 1,000千円 (研究代表者: 岡野衛士).
- 2.3 全国銀行学術研究振興財団 研究助成, 2010年1月～2010年12月, “Monetary and Fiscal Policy Interaction with the Zero Bound Interest Rate in Japan and the World,” 700千円.
- 2.4 国際交流基金日米センター/米国社会科学研究評議会 安倍フェローシップ(2007年フェロー), 2008年8月～2009年7月, “The Optimal Monetary and Fiscal Policy Mix in Economies with a Mixture of Twin Deficits and Twin Divergence,” 26,700USドル.

受賞歴

1. Best Paper for The Best Paper Award, The 26th Eurasia Business and Economics Society (EBES) Conference, [(Masataka Eguchi と共著) “The Importance of Awareness of Default Risk on Conducting Monetary and Fiscal Policies” (学術論文 2.3) に対して], 2018年10月.
2. Third Best Paper for The Best Paper Award, The 19th Eurasia Business and Economics Society (EBES) Conference, [(Kazuyuki Inagaki と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE View” (学術論文 2.1 のワーキングペーパー版) に対して], 2016年5月.

担当科目

マクロ経済学

1. 「マクロ経済学基礎 (大学院)」, 名古屋市立大学 (2015年度前期, 2019年度前期, 2020年度前期, 2023年度前期)
2. 「マクロ経済学 I (学部)」, 千葉経済大学 (2005年度通年, 2006年度後期, 2007年度後期, 2008年度前期).
3. 「初級マクロ経済学(学部)」, 千葉経済大学 (2012年度後期, 2013年度後期).
4. 「マクロ経済学のトピックス(学部)」, 千葉経済大学 (2010年度前期).

金融論

1. 「Money and Finance (大学院)」, 名古屋市立大学 (2020年度後期, 2022年度後期, 2023年度前期)
2. 「金融論 (大学院)」, 名古屋市立大学 (2014年度後期, 2015年度後期, 2016年前期).

3. 「金融政策論Ⅱ(学部)」, 名古屋市立大学 (2014年度後期, 2016年度後期, 2018年度後期, 2019年度後期, 2020年度前期, 2021年度前期, 2023年度前期).
4. 「金融政策論Ⅰ(学部)」, 名古屋市立大学 (2014年度前期, 2016年前期, 2020年度後期, 2022年度後期, 2024年度前期).
5. 「国際金融論Ⅰ(学部)」, 千葉経済大学 (2010年度前期, 2011年度前期, 2013年度前期).
6. 「国際金融論Ⅱ(学部)」, 千葉経済大学 (2010年度後期, 2011年度後期).
7. 「銀行論(学部)」, 千葉経済大学 (2009年度後期, 2010年度前期).
8. 「証券市場論(学部)」, 千葉経済大学 (2009年度後期, 2010年度後期).

経済学一般

1. 「国民所得はどう決まるか? (学部)」, 名古屋市立大学 (2024年前期).
2. 「経済学3(学部)」, 名古屋市立大学 (2016年前期).
3. 「入門経済学Ⅱ(学部)」, 名古屋市立大学 (2015年度後期, 2021年度後期, 2022年度後期)
4. 「経済学入門(学部)」, 千葉経済大学 (2010年度通年, 2011年度通年).
5. 「経済学入門Ⅰ(学部)」, 千葉経済大学 (2012年度前期, 2013年度前期).
6. 「経済学入門Ⅱ(学部)」, 千葉経済大学 (2013年度後期).
7. 「外書購読(学部)」, 千葉経済大学 (2009年度後期, 2010年度後期, 2011年度後期).

その他

1. 「情報リテラシー入門(学部)」, 千葉経済大学 (2005年度前期).

※その他基礎演習(学部)、演習(学部, 国際マクロ経済学)、演習(学部, 国際金融論)、演習(学部, マクロ経済学)を多数回担当

大学院生指導

1. MSc, Birkbeck, University of London (2018年5月～9月, 2名).
2. 修士(経済学), 名古屋市立大学 (2020年4月～2022年3月, 1名; 2022年4月～2024年3月, 1名; 2023年4月～現在, 1名)

研究分野

開放マクロ経済学, 国際金融論, 金融政策, マクロ経済学

著書

1. (小川英治と共著)『国際金融』東洋経済新報社, 2016年4月.

学術論文

共著論文のうち*印は Corresponding Author.

1 未公刊論文

査読なし共著論文

- 1.1 (Masataka Eguchiと共著) “The Effects of a Money-financed Fiscal Stimulus without Irredeemability of Money,” 未定稿, 2024年12月.*

1.2 (Masataka Eguchiと共著) “Optimal Monetary and Fiscal Policy Rules, Welfare Gains and Exogenous Shocks in an Economy with Default Risk,” 未定稿, 2024年7月.*

別バージョン: (Masataka Eguchiと共著) “Optimal Monetary and Fiscal Policy Rules, Welfare Gains and Exogenous Shocks in an Economy with Default Risk,” *BCAM Working Paper Series*, No. 1902, 2019年7月.*

1.3 (Masataka Eguchiと共著) “A Role Model of Monetary and Fiscal Policy Rules in an Economy with Sovereign Risk: Evidence from Indonesia,” 未定稿, 2017年5月.*

査読なし単著論文

1.4 “The Effects of a Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy with Fiscal Theory of Price Level,” 未定稿, 2024年10月.

別バージョン: (Nguyen Thi Viet Phuongと共著) “The Effects of a Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy with the FTPL,” *名古屋市立大学経済学会ディスカッションペーパーシリーズ*, No. 693, 2024年1月.*

2 公刊済み学術論文

査読あり共著論文

2.1 (Kazuyuki Inagakiと共著) “Understanding the Gains from Wage Flexibility in a Currency Union: A Fiscal Policy Connection,” *Macroeconomic Dynamics*, 29, e65, 2025年1月.*

別バージョン: “Understanding the Gains from Wage Flexibility in a Currency Union: The Fiscal Policy Connection,” *Working on Europe Paper Series*, No. 1/2023, 2023年1月(査読あり).

別バージョン: “Understanding the Gains from Wage Flexibility in a Currency Union: The Fiscal Policy Connection,” *BCAM Working Paper Series*, No. 2005, 2020年11月.

2.2 (Masataka Eguchiと共著) “The Effects of a Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy,” *IMF Economic Review*, 72, 2024年9月, 1212~1237 ページ.*

別バージョン: (Masataka Eguchiと共著) “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy,” *Dynare Working Paper Series*, No. 70, 2021年9月.*

2.3 (Kazuyuki Inagaki, Masataka Eguchiと共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint,” *Journal of International Financial Markets, Institutions and Money*, 91, 2024年3月, 101953.*

別バージョン: (Kazuyuki Inagakiと共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint,” *BCAM Working Paper Series*, No. 1901, 2019年5月.*

別バージョン: (Kazuyuki Inagakiと共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint,” *名古屋市立大学経済学会ディスカッションペーパーシリーズ*, No. 611, 2017年2月.*

2.4 (Masataka Eguchiと共著) “The Importance of Awareness of Default Risk on Conducting Monetary and Fiscal Policies,” *Eurasian Economic Review*, 10, 2020年11月, 361~392 ページ.*

2.5 (Masashige Hamanoと共著) “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union,” *Macroeconomic Dynamics*, 22, 2018年10月, 1790~1807 ページ.*

別バージョン: (with Masashige Hamano and Pierre Picard), “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union,” *Understanding Persistent Deflation in Japan Working Paper Series*, No. 46, 2014年9月.*

- 2.6 (Tae-Seok Jang と共著) “Productivity Shocks and Monetary Policy in a Two-country Model,” *Frontiers of Economics in China*, 10, 2014 年 3 月, 7~37 ページ.
別バージョン: (Tae-Seok Jang と共著) “Productivity Shocks and Monetary Policy in a Two-country Model,” *Dynare Working Papers Series*, No. 29, 2013 年 12 月.
- 2.7 (Masataka Eguchi, Hiroshi Gunji および Tomomi Miyazaki と共著) “Optimal Monetary Policy in an Estimated Local Currency Pricing Model,” Balke, N., Canova, F., Milani, F. and Wynne, M.A. (Ed.) *DSGE Models in Macroeconomics: Estimation, Evaluation, and New Developments (Advances in Econometrics*, 28), 2012 年 11 月, Emerald Group Publishing Limited, Leeds, 39~79 ページ.*
別バージョン: (Masataka Eguchi, Hiroshi Gunji および Tomomi Miyazaki と共著) “Optimal Monetary Policy in an Estimated Local Currency Pricing Model,” *IER Discussion Paper Series*, No. A 558, 2012 年 1 月.*
- 2.8 (Eiji Ogawa と共著) “Sovereign Risk in the Euro Zone and Monetary Policy,” *Global Journal of Economics*, 1, 2012 年 10 月, 1~30 ページ.*
別バージョン: (Eiji Ogawa と共著) “Sovereign Risk in the Euro Zone and Monetary Policy,” *EUSI Working Papers Series*, E-2012-02, 2012 年 5 月.*

査読あり単著論文

- 2.9 “How Important is Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?” *Journal of Economic Dynamics and Control*, 38, 2014 年 1 月, 266~286 ページ.
別バージョン: “How Important is Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?” *EUSI Working Paper Series*, No. E-2010-02, 2010 年 6 月.
- 2.10 “Optimal Monetary and Fiscal Policy in a Currency Union with Nontradables,” *Macroeconomics and Finance in Emerging Market Economies*, 3, 2010 年 3 月, 1~23 ページ.
- 2.11 “Has Inflation Targeting Improved Social Welfare in Practice?” *Applied Economics Letters*, 15, 2008 年 1 月, 23~26 ページ.
- 2.12 “Inflation--Output Trade-offs in an Optimization-based Econometric Framework Applied to an Open Economy: The Case of Japan,” *Journal of Asian Economics*, 18, 2007 年 2 月, 98~124 ページ.
- 2.13 “The Choice of the Inflation Rate as a Target in an Economy with Pricing to Market,” *Japan and the World Economy*, 19, 2007 年 1 月, 48~67 ページ.
- 2.14 「インフレターゲットिंगがもたらす社会厚生の実証分析-イギリスのケース-」, 内閣府経済社会総合研究所『*経済分析*』, 第 175 号, 2005 年 3 月, 81~104 ページ.
- 2.15 「市場別価格設定行動とインフレターゲットING」, 日本金融学会『*金融経済研究*』, 第 21 号, 2004 年 12 月, 68~91 ページ.
- 2.16 「小国開放経済でのインフレターゲットINGと名目為替相場ターゲットING」, 一橋学会『*一橋論叢*』, 第 129 巻 第 5 号, 2003 年 5 月, 175~200 ページ.

査読なし共著論文

- 2.17 (小川英治と共著) 「欧州ソブリンリスクと金融政策」, 財務総合政策研究所『*フィナンシャル・レビュー*』, 第 110 号, 2012 年 3 月, 4~27 ページ.

査読なし単著論文

- 2.18 “Optimal Monetary Policy and Nominal Exchange Rate Volatility under Local Currency Pricing,” 名古屋市立大学大学院経済学研究科附属経済研究所『国際地域経済研究』, 23, 2024年2月, 5～33ページ。
別バージョン: “Optimal Monetary Policy and Nominal Exchange Rate Volatility under Local Currency Pricing,” *EUSI Working Paper Series*, No. E-2010-03, 2010年12月.
- 2.19 “Comment Paper to Chapter ‘Is the European Monetary Union Sustainable? The Role of Real Convergence,” in Kaji, Sahoko and Eiji Ogawa, eds., *Who will Provide the Next Financial Model?* *Springer*, 2013年5月, 219～220ページ.
- 2.20 「日本へのインフレターゲットの導入に関する一考察」, 中央大学企業研究所『企業研究』, 第8号, 2006年2月, 47～68ページ.
- 2.21 「インフレターゲットによるインフレと産出のトレードオフの解消-より現実的な設定での考察-」, 一橋研究編集委員会『一橋研究』, 第29巻第2号, 2004年7月, 1～6ページ.
- 2.22 「インフレターゲット: 開放経済モデルでの展開」, 一橋研究編集委員会『一橋研究』, 第28巻第4号, 2004年1月, 1～9ページ.
- 2.23 「なぜインフレターゲットか? 動学的非整合性からインフレターゲットまでの議論とその変遷」, 一橋研究編集委員会『一橋研究』, 第28巻第1号, 2003年4月, 1～16ページ.

その他論文

1. 「金融政策の変更が与える企業業績への影響 (最終回)」, 中部産業連盟機関誌プロGRESS第881号『大道無門』, 2024年9月1日, 22ページ.
2. 「金融政策の変更が与える企業業績への影響 (第2回)」, 中部産業連盟機関誌プロGRESS第880号『大道無門』, 2024年8月1日, 22ページ.
3. 「金融政策の変更が与える企業業績への影響 (第1回)」, 中部産業連盟機関誌プロGRESS第879号『大道無門』, 2024年7月1日, 22ページ.
4. 「金利平価式」, 中部経済新聞『オープンカレッジ』, 2024年3月26日, 朝刊10面.
5. 「ヘリコプターマネー」, 中部経済新聞『オープンカレッジ』, 2021年6月27日, 朝刊8面.
6. 「物価の財政理論とその課題」, 中部経済新聞『オープンカレッジ』, 2018年8月31日, 朝刊10面.
7. 「『ビッグマックレート』を考える」, 中部経済新聞『オープンカレッジ』, 2017年2月3日, 朝刊8面.
8. 「国際政策協調の舞台としてのG20」, 中部経済新聞『オープンカレッジ』, 2015年5月13日, 朝刊8面.
9. 『増加続ける中国の外貨準備--「中国脅威論の論拠か」』, 中部経済新聞『オープンカレッジ』, 2014年5月16日, 朝刊8面.
10. 「通貨同盟の維持とグローバル・インバランス」, 小川英治編著『グローバル・インバランスと国際通貨体制』所収, 2013年3月, 東洋経済新報社.
11. 「通貨同盟の維持とグローバルインバランス」, 日本経済研究所『日経研月報』, 2012年4月, 14～22ページ.

マスメディアによる引用

1. 「名古屋金利 マイナス金利解除でどうなる」, 名古屋テレビ「ドデスカ+」, 2024年5月16日15時40分～16時10分.
2. 江口允崇著「財政の持続可能性を考える (10) 『マネーファイナンスの効果』」, 日本経済新聞『やさしい経済学』, 2023年12月15日, 朝刊.

3. 「講演会『金融政策と地銀の統合～市民の暮らしへの影響～』開催 中京大学と共催, 毎日新聞『大学倶楽部・名古屋市立大』, 2019年1月28日, 朝刊.
4. 小川英治著「ユーロ安定へ『離脱ルール』」, 日本経済新聞『経済教室』, 2011年8月26日, 朝刊.

学会参加

報告

1. 2024年11月, Southern Economic Association 94nd Annual Meeting (SEA 2024), Washington Hilton (Washington DC, 米国). (Nguyen Thi Viet Phuongと共著) “The Effects of a Money-Financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy with the FTPL.”
2. 2024年10月, The 65th Conference of the Italian Economic Association (65 RSA), University of Urbino (Urbino, イタリア). “The Effects of A Money-financed Fiscal Stimulus in A Small Open Economy with Fiscal Theory of Price Level.”
3. 2024年10月, 日本経済学会 2024年度秋季大会, 福岡大学 (福岡市). “The Effects of A Money-financed Fiscal Stimulus in A Small Open Economy with Fiscal Theory of Price Level.”
4. 2024年8月, 9th Annual Conference of the Society for Economic Measurement (SEM), Georgia Institute of Technology Atlanta (Atlanta, GA, 米国). “The Effects of A Money-financed Fiscal Stimulus in A Small Open Economy with the FTPL.”
5. 2024年6月, 30th Conference on Computing in Economics and Finance (30th CEF), Nanyang Technological University (Singapore, シンガポール). “The Effects of A Money-financed Fiscal Stimulus in A Small Open Economy with the FTPL.”
6. 2024年6月, 日本応用経済学会 2024年度春季大会, 九州大学 (福岡市). “The Effects of a Money-Financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy with the FTPL.”
7. 2024年5月, 8th International Workshop on “Financial Markets and Nonlinear Dynamics” (7th International Workshop FMND), Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris CCIP (Paris, フランス). “The Effects of a Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy with the FTPL.”
8. 2023年6月, The 8th Annual Conference of the Society for Economic Measurement (SEM 2023) (University of Milano-Bicocca, Milan, イタリア). “Understanding the Gains from Wage Flexibility in a Currency Union: The Fiscal Policy Connection.”
9. 2023年6月, 7th International Workshop on “Financial Markets and Nonlinear Dynamics” (7th International Workshop FMND), Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris CCIP (Paris, フランス). “Understanding the Gains from Wage Flexibility in a Currency Union: The Fiscal Policy Connection.”
10. 2023年5月, 日本経済学会 2023年度春季大会, オンライン. “Understanding the Gains from Wage Flexibility in a Currency Union: The Fiscal Policy Connection.”
11. 2023年5月, Midwest Macroeconomics Meetings, Clemson University, (Clemson, SC, 米国). “Understanding the Gains from Wage Flexibility in a Currency Union: The Fiscal Policy Connection.”
12. 2023年5月, 日本金融学会 2023年度春季大会, 一橋大学 (東京都). “Understanding the Gains from Wage Flexibility in a Currency Union: The Fiscal Policy Connection.”
13. 2023年3月, 日本金融学会関東部会, 慶應義塾大学 (東京都). “Understanding the Gains from Wage Flexibility in a Currency Union: The Fiscal Policy Connection.”

14. 2022年11月, Southern Economic Association 92nd Annual Meeting (SEA 2022), Fort Lauderdale Marriott Harbor Beach Resort & Spa (Fort Lauderdale, FL, 米国). (Masataka Eguchi と共著) “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy.”
15. 2022年9月, The 30th Anniversary of the Maastricht Treaty Conference, European Institute of Public Administration (Maastricht, オランダ). “Understanding the Gains from Wage Flexibility in a Currency Union: The Fiscal Policy Connection.”
16. 2022年9月, 27th RSEP International Conference on Economics, Finance & Business, オンライン. (Masataka Eguchi と共著) “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy.”
17. 2022年8月, The 7th Annual Conference of the Society for Economic Measurement (SEM 2022), University of Calgary (Calgary, AB, カナダ). (Masataka Eguchi と共著) “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy.”
18. 2022年6月, 日本応用学会 2022年度春季大会, 熊本大学 (熊本市). (Masataka Eguchi と共著) “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy.”
19. 2022年5月, 日本経済学会 2022年度春季大会, オンライン. (Masataka Eguchi と共著) “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy.”
20. 2022年5月, 日本金融学会 2022年度春季大会, オンライン. (Masataka Eguchi と共著) “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy.”
21. 2022年3月, 日本金融学会中部部会 2021年度第2回研究会, オンライン. (Masataka Eguchi と共著) “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy.”
22. 2022年3月, 29th Symposium of the Society for Nonlinear Dynamics & Econometrics (SNDE ONLINE 2022), オンライン. (Masataka Eguchi と共著) “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy.”
23. 2021年12月, 15th International Conference on Computational and Financial Econometrics, オンライン. “The Effects of Money-financed Fiscal Stimulus in a Small Open Economy.”
24. 2021年2月, 日本金融学会中部部会 2020年度第2回研究会, オンライン. “Understanding the Gains from Wage Rigidity: How Default Risks Work?”
25. 2020年6月, 日本応用経済学会 2020年度春季大会, オンライン. “Understanding the Gains from Wage Rigidity: How Default Risks Work?”
26. 2019年10月, 日本金融学会 2019年秋季大会, 甲南大学 (神戸市). (Masataka Eguchi と共著) “Optimal Monetary and Fiscal Policy Rules, Welfare Gains and Exogenous Shocks in an Economy with Default Risk.”
27. 2019年10月, 日本応用経済学会 2019年秋季大会, 東京経済大学 (東京都). (Masataka Eguchi と共著) “Optimal Monetary and Fiscal Policy Rules, Welfare Gains and Exogenous Shocks in an Economy with Default Risk.”
28. 2019年8月, The 6th Annual Conference of Society for Economic Measurement (SEM 2019), Goethe University (Frankfurt, ドイツ). (with Masataka Eguchi) “The Importance of Awareness of Default Risk on Conducting Monetary and Fiscal Policies.”

29. 2019年8月, Singapore Economic Review Conference 2019 (SERC 2019), Mandarin Orchard Singapore, (Singapore, シンガポール). (with Masataka Eguchi) “The Importance of Awareness of Default Risk on Conducting Monetary and Fiscal Policies.”
30. 2019年6月, 25th International Conference on Computing in Economics and Finance (CEF 2019), (Ottawa, カナダ). (with Masataka Eguchi) “The Importance of Awareness of Default Risk on Conducting Monetary and Fiscal Policies.”
31. 2019年6月, INFINITI Conference on International Finance (INFINITI 2019), University of Glasgow, (Glasgow, 英国). “Understanding the Gains from Wage Rigidity: How Default Risks Work?”
32. 2019年5月, 4th International Workshop on “Financial Markets and Nonlinear Dynamics” (4th International Workshop FMND), Hotel Provinces Opéra (Paris, フランス). (with Masataka Eguchi) “The Importance of Awareness of Default Risk on Conducting Monetary and Fiscal Policies.”
33. 2018年10月, 26th EBES Conference, University of Finance and Administration (Prague, チェコ). (with Masataka Eguchi) “The Importance of Awareness of Default Risk on Conducting Monetary and Fiscal Policies.”
34. 2018年7月, 8th International Conference on Economics (EconWorld2018), NH Collection Amsterdam Barbizon Palace (Amsterdam, オランダ). (with Masataka Eguchi) “The Importance of Awareness of Default Risk on Conducting Monetary and Fiscal Policies.”
35. 2018年7月, 14th Dynare Conference, European Central Bank (Frankfurt, ドイツ). (with Kazuyuki Inagaki) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
36. 2018年6月, European Economics and Finance Society 17th Annual Conference (EEFS 2018), City University of London, (London, 英国). (with Kazuyuki Inagaki) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
37. 2018年6月, 24th International Conference on Computing in Economics and Finance (CEF 2018), Catholic University of Sacred Heart (Milan, イタリア). (with Kazuyuki Inagaki) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
38. 2018年6月, 35th International Symposium on Money, Banking and Finance, Sciences Po Aix, (Aix-en-Provence, フランス). (with Kazuyuki Inagaki) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
39. 2018年4月, 3rd International Conference on Banking and Finance Perspectives, Eastern Mediterranean University (Famagusta, 北キプロス). (with Masataka Eguchi) “The Importance of Awareness of Default Risk on Conducting Monetary and Fiscal Policies.”
40. 2018年3月, 26th Symposium of the Society of Nonlinear Dynamics and Econometrics, 慶應義塾大学 (東京都). (with Kazuyuki Inagaki) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
41. 2018年3月, Eastern Economic Association 44th Annual Meetings, Boston Sheraton Hotel, (Boston, MA, 米国). (with Kazuyuki Inagaki) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”

42. 2017年9月, XXIX Annual Conference of the Italian Society of Public Economics (SIEP2017), University of Catania (Catania, イタリア). (with Kazuyuki Inagaki) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
43. 2017年9月, The 49th Money, Macro and Finance Research Group Annual Conference (MMF2017), King’s College London (London, 英国). (with Kazuyuki Inagaki) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
44. 2017年7月, Singapore Economic Review Conference 2017 (SERC 2017), Mandarin Orchard Singapore (Singapore, シンガポール). (with Kazuyuki Inagaki) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
45. 2017年7月, The 4th Annual Conference of the Society for Economic Measurement (SEM 2017), Massachusetts Institute of Technology (Cambridge, MA, 米国). (Kazuyuki Inagaki, Masataka Eguchi と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
46. 2017年6月, 日本応用経済学会 2017年春季大会, 久留米大学 (福岡県). (Masataka Eguchi と共著) “A Role Model of Monetary and Fiscal Policy Rules in an Economy with Sovereign Risk: Evidence from Indonesia.”
47. 2017年4月, Royal Economic Society Conference 2017 (RES 2017), University of Bristol (Bristol, 英国). (Kazuyuki Inagaki と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
48. 2017年3月, NCU and Chubu JSME Research Workshop on Accounting and Finance, 名古屋都市センター (名古屋市). (Kazuyuki Inagaki と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
49. 2016年12月, Third Annual CIGS End of Year Macroeconomic Conference, キャノングローバル戦略研究所 (東京都). (Kazuyuki Inagaki と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
50. 2016年10月, The 57th Conference of the Italian Economic Association (57 RSA), Bocconi University (Milan, イタリア). (Kazuyuki Inagaki と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from a DSGE Viewpoint.”
51. 2016年7月, 2016 Asia-Pacific Conference on Economics and Finance (APEF 2016), East Asia Institute of Management (Singapore, シンガポール). (Kazuyuki Inagaki と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE.”
52. 2016年7月, 45th Australian Conference of Economists (ACE 2016), Flinders University of South Australia (Adelaide, オーストラリア). (Kazuyuki Inagaki と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE View.”
53. 2016年7月, 10th Annual Meeting of the Portuguese Economic Journal, University of Coimbra (Coimbra, ポルトガル). (Kazuyuki Inagaki と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE View.”
54. 2016年6月, 日本応用経済学会 2016年春季大会, 広島大学 (広島市). (Kazuyuki Inagaki と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE View.”
55. 2016年6月, 日本経済学会 2016年春季大会, 名古屋大学 (名古屋市). (Kazuyuki Inagaki と共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE View.”

56. 2016年6月, 2016 The Korea Money and Finance Association Conference, Haevichi Resort and Hotel Jeju (Jeju, 韓国). (Kazuyuki Inagaki, Masataka Eguchiと共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE View.”
57. 2016年5月, The 19th EBES Conference, Istanbul Technical University (Istanbul, トルコ). (Kazuyuki Inagakiと共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE View.”
58. 2016年5月, 日本金融学会2016年春季大会, 武蔵大学 (東京都). (Kazuyuki Inagakiと共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE View.”
59. 2016年3月, 日本金融学会中部部会, 名城大学 (名古屋市). (Kazuyuki Inagakiと共著) “Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE View.”
60. 2015年9月, The 47th Money, Macro and Finance Research Group Annual Conference (MMF 2015), Cardiff University (Cardiff, イギリス). (with Masashige Hamano) “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union.”
61. 2015年8月, Singapore Economic Review Conference 2015 (SERC 2015), Mandarin Orchard Singapore (Singapore, シンガポール). (with Masashige Hamano) “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union.”
62. 2015年7月, 2015 Australian Conference of Economists (ACE 2015), Queensland University of Technology (Brisbane, オーストラリア). (with Masashige Hamano) “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union.”
63. 2015年6月, 2nd International Workshop on “Financial Markets and Nonlinear Dynamics” (2nd International Workshop FMND), ESSCA Campus Paris (Boulogne Billancourt, フランス). (with Masashige Hamano) “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union.”
64. 2015年5月, 日本経済学会2015年春季大会, 新潟大学 (新潟市). (with Masashige Hamano) “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union.”
65. 2014年10月, 14th EBES Conference, Silken Diagonal Barcelona (Barcelona, スペイン). (with Masashige Hamano) “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union.”
66. 2014年9月, 日本金融学会2014年秋季大会, 山口大学 (山口県). (with Masashige Hamano) “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union.”
67. 2014年9月, 日本金融学会中部部会, 愛知学院大学 (名古屋市). (with Masashige Hamano and Pierre Picard) “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union.”
68. 2014年7月, The 10th Annual Conference of Asia Pacific Economic Association, The Imperial Queen’s Park Hotel (Bangkok, タイ). (with Masashige Hamano) “Inflation Stabilization and Default Risk in a Currency Union.”
69. 2013年10月, The 9th Dynare Conference, Shanghai University of Finance and Economics (Shanghai, 中国). (with Taeseok Jang) “Productivity Shocks and Monetary Policy in a Two-Country Model.”
70. 2012年6月, The 8th Annual Conference of Asia Pacific Economic Association, Nanyang Technological University (Singapore, シンガポール). (with Eiji Ogawa) “Sovereign Risk in the Euro Zone and Monetary Policy.”

71. 2012年5月, 2012 Midwest Macroeconomics Meetings, University of Notre Dame (South Bend, IN, 米国). (with Masataka Eguchi, Hiroshi Gunji and Tomomi Miyazaki) “Optimal Monetary Policy in an Estimated Local Currency Pricing Model.”
72. 2011年11月, 10th Annual Advances in Econometrics Conference, Southern Methodist University (Dallas, TX, 米国). “Optimal Monetary Policy and Nominal Exchange Rate Volatility under Local Currency Pricing.”
73. 2011年9月, The European Conference on Banking and the Economy, Winchester Guildhall (Winchester, イギリス). (with Masataka Eguchi, Hiroshi Gunji and Tomomi Miyazaki) “Optimal Monetary Policy in an Estimated Local Currency Pricing Model.”
74. 2011年5月, 日本金融学会 2011年春季大会, 明治大学 (東京都). (with Masataka Eguchi, Hiroshi Gunji and Tomomi Miyazaki) “Optimal Monetary Policy in an Estimated Local Currency Pricing Model.”
75. 2011年5月, 2011 Midwest Macroeconomics Meetings, Vanderbilt University, (Nashville, TN, 米国). (with Masataka Eguchi, Hiroshi Gunji and Tomomi Miyazaki) “Optimal Monetary Policy in an Estimated Local Currency Pricing Model.”
76. 2011年3月, The 3rd International Conference of Macroeconomics and Policy, 政策研究大学院大学 (東京都). (with Masataka Eguchi, Hiroshi Gunji and Tomomi Miyazaki) “Optimal Monetary Policy in an Estimated Local Currency Pricing Model.”
77. 2010年9月, 39th Australian Conference of Economists (ACE 2010), Dockside, (Sydney, オーストラリア). “How Important is the Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?”
78. 2010年9月, Money, Macro and Finance Research Group 42nd Annual Conference (MMF 2010), Cyprus University of Technology (Limassol, キプロス). “How Important is the Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?”
79. 2009年12月, 第11回マクロコンファレンス, 大阪大学 (大阪府). “How Important is the Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?”
80. 2009年11月, 「財政政策の政治・経済分析」コンファレンス, 名古屋学院大学 (名古屋市). “How Important is the Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?”
81. 2009年10月, 日本経済学会 2009年秋季大会, 専修大学 (川崎市). “How Important is the Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?”
82. 2009年6月, International Conference on Policy Modeling (EcoMod2009), University of Ottawa (Ottawa, ON, カナダ). “How Important is the Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?”
83. 2009年5月, The 13th International Conference on Macroeconomic Analysis and International Finance, University of Crete (Rethymno, ギリシャ). “How Important is the Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?”
84. 2009年4月, The Society for Nonlinear Dynamics and Econometrics 17th Annual Symposium, Federal Reserve Bank of Atlanta (Atlanta, GA, 米国). “How Important is the Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?”
85. 2009年1月, 11th Annual Conference on Money and Finance in the Indian Economy, Indhira Gandhi Institute of Development Research (Mumbai, インド). “Optimal Monetary and Fiscal Policy in a Currency Union with Nontradables.”

86. 2008年12月, Conference on European Financial, Monetary and Fiscal Integration, Maastricht University (Maastricht, オランダ). “How Important is the Fiscal Policy Cooperation in a Currency Union?”
87. 2007年6月, 日本経済学会 2007年春季大会, 大阪学院大学 (大阪府). “Optimal Monetary and Fiscal Policy Mix in a Currency Union with Nontradable Goods.”
88. 2007年5月, 日本金融学会 2007年春季大会, 麗澤大学 (千葉県). “Optimal Monetary and Fiscal Policy in a Currency Union with Nontradables.”
89. 2006年9月, The Journal of Asian Economics Conference on Financial System Reform and Monetary Policies in Asia, 一橋大学 (東京都). “Inflation--Output Trade-offs in an Optimization-based Econometric Framework Applied to an Open Economy: The Case of Japan.”
90. 2005年12月, 第2回浜名湖カンファレンス, ホテル白砂亭 (浜松市). “Inflation--Output Trade-offs in an Optimization-based Econometric Framework Applied to an Open Economy: The Case of Japan.”
91. 2005年12月, 第4回現代経済政策研究会議, 関西社会経済研究所 (大阪市). “Inflation--Output Trade-offs in an Optimization-based Econometric Framework Applied to an Open Economy: The Case of Japan.”
92. 2005年6月, 日本経済学会 2005年度春季大会, 京都産業大学 (京都市). “Inflation--Output Trade-offs in an Optimization-based Econometric Framework Applied to an Open Economy: The Case of Japan.”
93. 2005年5月, 日本金融学会 2005年度春季大会, 日本大学 (東京都). “Inflation--Output Trade-offs in an Optimization-based Econometric Framework Applied to an Open Economy: The Case of Japan.”
94. 2004年10月, 日本金融学会国際金融部会, 一橋大学 (東京都). “Inflation--Output Trade-offs in an Optimization-based Econometric Framework Applied to an Open Economy: The Case of Japan.”
95. 2004年9月, 日本経済学会 2004年度秋季大会, 岡山大学 (岡山県). “Has Inflation Targeting Improved Social Welfare in Practice?”
96. 2004年9月, 日本金融学会 2004年度秋季大会, 愛知大学 (名古屋市). “Has Inflation Targeting Improved Social Welfare in Practice?”
97. 2004年3月, 第1回浜名湖カンファレンス, かんぼの宿三ヶ日 (浜松市). “Has Inflation Targeting Improved Social Welfare in Practice?”
98. 2003年10月, 日本金融学会 2003年度春季大会, 滋賀大学 (滋賀県). 「市場別価格設定行動とインフレターゲットイング」
99. 2003年10月, 日本経済学会 2003年度秋季大会, 明治大学 (東京都). 「市場別価格設定行動とインフレターゲットイング」

討論

1. 2024年6月, 8th International Workshop on “Financial Markets and Nonlinear Dynamics” (8th International Workshop FMND), Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris CCIP (Paris, フランス).
2. 2023年9月, 日本金融学会 2023年秋季大会, 九州大学 (福岡市).
3. 2023年9月, 日本金融学会 2023年秋季大会, 九州大学 (福岡市).
4. 2023年6月, 7th International Workshop on “Financial Markets and Nonlinear Dynamics” (7th International Workshop FMND), Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris CCIP (Paris, フランス).
5. 2023年5月, 日本金融学会 2023年春季大会, 一橋大学 (東京都).

6. 2022年10月, 日本金融学会中部部会 2022年度第1回研究会, オンライン.
7. 2021年11月, 日本金融学会中部部会 2021年度第1回研究会, オンライン.
8. 2020年11月, 日本金融学会中部部会 2020年度第1回研究会, オンライン.
9. 2019年6月, INFINITI Conference on International Finance (INFINITI 2019), University of Glasgow (Glasgow, 英国).
10. 2019年5月, 4th International Workshop on “Financial Markets and Nonlinear Dynamics” (4th International Workshop FMND), Hotel Provinces Opéra (Paris, フランス).
11. 2018年6月, 35th International Symposium on Money, Banking and Finance, Sciences Po Aix, (Aix-en-Provence, フランス).
12. 2017年6月, 日本経済学会 2017年春季大会, 立命館大学 (滋賀県).
13. 2016年10月, The 57th Conference of the Italian Economic Association (57 RSA), Bocconi University (Milan, イタリア).
14. 2016年10月, 日本金融学会 2016年秋季大会, 関西大学 (大阪府).
15. 2016年10月, 日本金融学会中部部会 2016年度第1回研究報告会, 中京大学 (名古屋市).
16. 2016年6月, 日本経済学会 2016年春季大会, 名古屋大学 (名古屋市).
17. 2015年6月, 2nd International Conference on “Financial Markets and Nonlinear Dynamics” (2nd International Workshop FMND), ESSCA Campus Paris (Boulogne Billancourt, フランス).
18. 2014年9月, 日本金融学会 2014年秋季大会, 山口大学 (山口県).
19. 2014年7月, The 10th Annual Conference of Asia Pacific Economic Association, The Imperial Queen’s Park Hotel (Bangkok, タイ).
20. 2013年6月, 日本経済学会 2013年春季大会, 富山大学 (富山県).
21. 2012年6月, 日本経済学会 2012年春季大会, 北海道大学 (北海道).
22. 2011年12月, The International Conference of Joint Research Group “EU Economy” of EUSI in Tokyo, 慶應義塾大学 (東京都).
23. 2011年11月, 生活経済学会関東部会, 一橋大学 (東京都).
24. 2011年10月, 日本経済学会 2011年秋季大会, 筑波大学 (茨城県).
25. 2011年10月, 日本経済学会 2011年秋季大会, 筑波大学 (茨城県).
26. 2011年9月, 日本金融学会 2011年秋季大会, 近畿大学 (大阪府).
27. 2010年12月, The International Conference of Joint Research Group “EU Economy” of EUSI in Tokyo, 一橋大学 (東京都).
28. 2010年11月, 日本応用経済学会 2010年度秋季大会, 高崎経済大学 (群馬県).
29. 2010年9月, 日本金融学会 2010年度秋季大会, 神戸大学 (神戸市).
30. 2009年5月, The 13th International Conference on Macroeconomic Analysis and International Finance, University of Crete (Rethymno, ギリシャ).
31. 2008年6月, 日本経済学会 2008年度春季大会, 東北大学 (仙台市).
32. 2007年6月, 日本経済学会 2007年度春季大会, 大阪学院大学 (大阪府).
33. 2007年3月, 第3回浜名湖カンファレンス, かんぽの宿三ヶ日 (浜松市).
34. 2006年12月, The 2nd East Asia Accounting and Finance Conference, 長崎大学 (長崎県).
35. 2006年10月, 日本経済学会 2006年度秋季大会, 大阪市立大学 (大阪市).

36. 2005年12月, 第2回浜名湖カンファレンス, ホテル白砂亭 (浜松市).

座長

1. 2024年6月, 日本応用経済学会 2024年度春季大会, 九州大学 (福岡市).
2. 2024年1月, JSME-KMFA Joint Workshop 2024, 奈良県コンベンションセンター (奈良県).
3. 2023年9月, 日本金融学会 2023年秋季大会, 九州大学 (福岡市, 副座長).
4. 2022年11月, 日本金融学会 2022年秋季大会, 神戸大学 (神戸市).
5. 2022年11月, Southern Economic Association 92nd Annual Meeting (SEA 2022) (Fort Lauderdale Marriott Harbor Beach Resort & Spa, Fort Lauderdale, FL, 米国).
6. 2022年9月, The 30th Anniversary of the Maastricht Treaty Conference, European Institute of Public Administration (Maastricht, オランダ).
7. 2020年11月, 日本金融学会中部部会 2020年度第1回研究会, オンライン.
8. 2019年8月, 2019 Singapore Economic Review Conference (SERC 2019), Mandarin Orchard Singapore (Singapore, シンガポール).
9. 2019年5月, 4th International Workshop on “Financial Markets and Nonlinear Dynamics” (4th International Workshop FMND), Hotel Provinces Opéra (Paris, フランス).
10. 2018年10月, 26th EBES Conference, University of Finance and Administration (Prague, チェコ).
11. 2018年6月, 24th International Conference on Computing in Economics and Finance (CEF 2018), Catholic University of Sacred Heart (Milan, イタリア).
12. 2017年3月, NCU and Chubu JSME Research Workshop on Accounting and Finance, 名古屋都市センター (名古屋市).
13. 2015年6月, 2nd International Workshop on “Financial Markets and Nonlinear Dynamics” (2nd International Workshop FMND), ESSCA Campus Paris (Boulogne Billancourt, フランス).
14. 2014年10月 14th Eurasia Business and Economics Society Conference, Silken Diagonal Barcelona (Barcelona, Spain).
15. 2014年9月, 日本金融学会 2014年秋季大会, 山口大学 (山口県).
16. 2013年5月, 日本金融学会 2013年春季大会, 一橋大学 (東京都).
17. 2011年10月, 日本経済学会 2011年秋季大会, 筑波大学 (茨城県).
18. 2011年9月, The European Conference on Banking and the Economy, Winchester Guildhall (Winchester, イギリス).
19. 2009年6月, International Conference on Policy Modeling (EcoMod2009), University of Ottawa (Ottawa, ON, カナダ).
20. 2007年3月, The Third International Workshop of Joint Research Study Group “EU Economy” of EUIJ Tokyo Consortium, 一橋大学 (東京都).

プログラム委員

1. 2025年6月, 日本金融学会 2025年春季大会, 東京大学 (東京都).
2. 2024年5月, 日本金融学会 2024年春季大会, 埼玉大学 (さいたま市, 委員長).
3. 2022年11月, 日本金融学会 2022年秋季大会, 神戸大学 (神戸市).
4. 2021年10月, 日本金融学会 2020年秋季大会, 大阪経済大学 (大阪府).
5. 2020年5月, 日本金融学会 2020年春季大会, 中央大学 (東京都).

6. 2019年10月, 日本金融学会 2019年秋季大会, 甲南大学 (神戸市).
7. 2018年10月, 日本金融学会 2018年秋季大会, 名古屋市立大学 (名古屋市).
8. 2015年5月, 日本金融学会 2015年春季大会, 東京経済大学 (東京都).
9. 2013年5月, 日本金融学会 2013年春季大会, 一橋大学 (東京都).

オーガナイザー

1. 2024年11月, 日本金融学会中部部会 2024年度第1回研究報告会, 南山大学 (名古屋市).
2. 2024年8月, 2024 All Japan PBFJ Finance Shark Tank Special Conference, 名古屋国際会議場 (名古屋市).
3. 2024年3月, 日本金融学会中部部会 2023年度第3回研究報告会, 名古屋市立大学 (名古屋市).
4. 2024年1月, JSME-KMFA Joint Workshop 2024, 奈良県コンベンションセンター (奈良県).
5. 2023年10月, 日本金融学会中部部会 2023年度第2回研究報告会, 名城大学 (名古屋市).
6. 2023年4月, 日本金融学会中部部会 2023年度第1回研究報告会, オンライン.
7. 2023年3月, 日本金融学会中部部会 2022年度第2回研究報告会, オンライン.
8. 2023年1月, JSME-KMFA Joint Workshop 2023 (ザロイヤルパークホテル京都梅小路, 京都市).
9. 2023年1月, 第2回若手研究者の金融セミナー (ザロイヤルパークホテル京都梅小路, 京都市).
10. 2022年10月, 日本金融学会中部部会 2022年度第1回研究報告会, オンライン.
11. 2022年3月, 日本金融学会中部部会 2021年度第2回研究報告会, オンライン.
12. 2021年11月, 日本金融学会中部部会 2021年度第1回研究報告会, オンライン.
13. 2021年2月, 日本金融学会中部部会 2020年度第2回研究報告会, オンライン.
14. 2020年11月, 日本金融学会中部部会 2020年度第1回研究報告会, オンライン.
15. 2019年10月, 日本金融学会中部部会 2019年度第1回研究報告会, 名城大学 (名古屋市).
16. 2019年9月, 2019 NCU and Chubu JSME Research Workshop on Accounting and Finance, 名古屋都市センター (名古屋市).
17. 2018年10月, 日本金融学会 2018年秋季大会, 名古屋市立大学 (名古屋市).
18. 2017年3月, International Conference on Money and Finance: A First Step toward Regional Cooperation, 一橋大学 (東京都).
19. 2014年7月, The 10th Annual Conference, Asia Pacific Economic Association, The Imperial Queen's Park Hotel (Bangkok, タイ).

研究会・セミナー参加

報告

小樽商科大学 (札幌市, 2014年8月), 九州大学 (福岡市, 2012年12月, 2014年12月), 神戸大学 (神戸市, 2006年11月, 2012年3月, 2016年5月), 政策研究大学院大学 (東京都, 2009年12月), 財務省 (東京都, 2011年9月), 上智大学 (東京都, 2014年9月), 千葉経済大学 (千葉市, 2009年11月), 中京大学 (名古屋市, 2014年10月, 2025年3月), 東京大学 (東京都, 2006年10月), 同志社大学 (京都市, 2016年1月), 富山大学 (富山県, 2006年12月), 長崎大学 (長崎県, 2006年10月), 名古屋市立大学 (名古屋市, 2014年6月, 2014年11月, 2016年6月, 2017年6月, 2020年9月, 2021年10月, 2024年4月), 一橋大学 (東京都, 2010年12月, 2009年11月, 2008年6月, 2006年11月, 2005年5月), 法政大学 (東京都, 2015年12月), 明星大学 (東京都, 2014年11月), Birkbeck, University of London (London, 英国, 2018年2月), Columbia University (New York, NY, 米

国, 2008年11月), University of Kent (Canterbury, 英国, 2018年5月), University of Luxembourg (Luxembourg, ルクセンブルク大公国, 2012年7月)

討論

内閣府 (東京都, 2017年5月)

レフェリー

応用経済学研究, 金融経済研究, 生活経済学研究 (2), 一橋商学論叢 (2), *Asian Economic Journal* (2), *Applied Economics* (4), *Applied Financial Economics* (2), *Central European Journal of Economic Modelling and Econometrics*, *International Finance*, *International Journal of Finance and Economics*, *Japan and the World Economy* (6), *Japanese Economic Review*, *Journal of Asian Economics*, *Journal of Economic Dynamics and Control*, *Journal of International Economic Studies*, *Journal of International Financial Markets, Institutions and Money*, *Journal of the Japanese and International Economies* (2), *Journal of Japanese Monetary and Financial Economics*, *Journal of Macroeconomics*, *Macroeconomics and Finance in Emerging Market Economies* (4), *Macroeconomic Dynamics*, *North American Journal of Economics and Finance*, *Review of International Economics*, *The Singapore Economic Review*

※括弧内は回数

表彰等の審査委員

1. 兼松フェローシップ (現兼松賞), 2010年2月.
2. 兼松賞, 2025年1月.